

Photo by Wolfgang Volz
©2021 Christo and Jeanne-Claude Foundation

Christo and Jeanne-Claude

“L’Arc de Triomphe, Wrapped”

21_21 DESIGN SIGHT Exhibition
Special Support: Vladimir Yavachev
[Christo and Jeanne-Claude Foundation]
Exhibition Director: Pascal Roulin
Visual Design: Shingo Noma

21_21

クリストとジャンヌ=クロード “包まれた凱旋門”

2022.6.13 Mon.—2023.2.12 Sun. [「二人のアーティスト：創作の64年」※このセクションは一部展示替えをいたします。]
“The Two Artists: 64 Years of Creation” *Some exhibits in this section rotate.

休館日：火曜日、年末年始（2022年12月27日—2023年1月3日） | 主催：21_21 DESIGN SIGHT、公益財団法人 三宅一生デザイン文化財団 | Closed on Tuesdays,
December 27, 2022—January 3, 2023 | Organized by: 21_21 DESIGN SIGHT, THE MIYAKE ISSEY FOUNDATION | www.2121designsight.jp

01. メインビジュアル

21_21 DESIGN SIGHT 企画展

クリストとジャンヌ＝クロード“包まれた凱旋門”

2021年9月、パリのエトワール凱旋門が布で覆われると、周囲は人々の歓声に包まれました。現代美術作家クリストとジャンヌ＝クロードが出会い、創造活動の一步を踏み出したパリで1961年に構想し、悲願の夢でもあったプロジェクト「L'Arc de Triomphe, Wrapped, Paris, 1961-2021 (包まれた凱旋門)」が現実のものとなった瞬間でした。

21_21 DESIGN SIGHT では、2022年6月13日より2023年2月12日まで、企画展「クリストとジャンヌ＝クロード“包まれた凱旋門”」を開催します。16日間に渡り、銀色のコーティングが施された再生可能な青い布25,000㎡と、3,000mもの赤いロープで包まれた「L'Arc de Triomphe, Wrapped」の制作背景と実現に向けた長い道のりに焦点をあて、二人の人生において貫かれたものを紐解きます。

1935年6月13日、同じ年の同じ日に別々の場所で生まれたクリストとジャンヌ＝クロードは、1958年秋のパリで運命的に出会い、アーティストとしての活動を始めます。その後1964年にニューヨークへ渡り、二人は世界中で驚きに満ち溢れたプロジェクトを実現させていきます。2009年にジャンヌ＝クロードが逝去した後も、二人が夢見たプロジェクトの実現に向けて、クリストは創作活動を続けました。「包まれた凱旋門」のプロジェクトもその1つでした。当初2020年に実現予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大のため延期となり、クリストは完成を見ることなく同年5月に他界。その後、多くの賛同者の協力のもと、構想から60年という歳月をかけて、2021年9月に実現の日を迎えたのです。

本展は、ヴラディミール・ヤヴァチェフをはじめとするクリスト・アンド・ジャンヌ＝クロード財団の協力を得て開催されます。多くの記録画像や映像を使って、本展ディレクターで映像作家でもあるパスカル・ルランのシネマティックな表現により「包まれた凱旋門」の構想から実現までを新たな体験として作り出します。また、二人の活動に長年かかわる、柳正彦が担当する「二人のアーティスト：創作の64年」というセクションでこれまでの主要な活動を紹介しします。

長い年月をかけ、さまざまな困難を乗り越えて実現へと向かう、ポジティブで力強い姿勢。また、そのような二人の強い思いの元に集まってきた仲間たちの存在があるからこそ、今までだれも見なかった作品を生み続けることができるのです。夢の実現に向けたクリストとジャンヌ＝クロードの姿勢は、アートやデザインのみならず日常におけるさまざまなチャレンジにも勇気を与えてくれるでしょう。

■ ディレクターズメッセージ

クリストが描いたドローイング作品、そして最終的にパリで実現した「包まれた凱旋門」では、世界的に有名なモニュメントが布とロープで包まれ、多くの来場者の関心を集めました。それは、「親愛なる」クリストとジャンヌ＝クロードという二人のアーティストとその作品に対する人々からの愛情と尊敬の念を物語っています。

何年にもわたり、二人のカリスマ性と創造性により、多くのサポーターが集まり、ファンは協力者となりながら、一時的で壮大なプロジェクトの完成を支えました。その多くが友情関係で結ばれ、それぞれの熟練の技を持ち寄り、さらに洗練された創作活動のために力を発揮しました。例えば、写真家のウルフガング・フォルツは今回展示されている写真の多くを撮影していますが、50年前という非常に早い時期から二人の活動と作品を撮影し続けているのです。そうした人々の集まりが強い絆で結ばれた「ワーキング・ファミリー」となり、プロジェクトは都市や自然、水面や砂漠、燃えるような太陽や雪の中へと広がってゆきました。

華々しい実績やそのスケール、人々の歓喜は、この二人のアーティストからの贈り物であるといえます。高い目標を掲げ、それを達成する忍耐力と才能を垣間見ること、私たちはそこから学ぶことができるのです。

この展覧会は、クリストとジャンヌ＝クロードが出会い、二人が1960年代にアヴァンギャルドなアーティストになったパリから始まります。1962年には、パリでの最初のプロジェクト、ヴィスコンティ通りの「ドラム缶の壁＝鉄のカーテン」を実現しました。その後、活動の拠点をニューヨークに移しましたが、1985年には再びパリで「包まれたポン・ヌフ」という大規模なプロジェクトを完成させます。「包まれた凱旋門」の実現は、二人のこれまでの創作活動がもたらした集大成の一つだといえるでしょう。

クリストとジャンヌ＝クロードの凱旋門のプロジェクトの構想は、1961年まで遡ります。その華々しい場所には、あの有名なシャンゼリゼ大通りをはじめとする12本もの主要なアヴェニューが集結しています。60年の年月を経て彼らの構想はここに結実したのです。

長いプロセスの中には準備、設置、そして展示という3つのステップがありました。

パリで最も賑やかな環状交差点の中心にある、この象徴的なモニュメントを16日間に渡って包むために、エンジニア、行政関係者、施工業者、製造メーカーなどあらゆる専門家が密に連携をとりながら、二人の理想に向けての解決策を提案してゆきます。

当初 2020 年に予定されていましたが、クリストの甥であるヴラディミール・ヤヴァチェフに率いられた、クリストとジャンヌ＝クロードの「親愛なるチーム」によって、ついに 2021 年に「包まれた凱旋門」は完成しました。

この展覧会は、彼らの素晴らしいプロジェクトとそれに対するパリからの愛情を示すものなのです。

パスカル・ルラン



02. パスカル・ルラン

パスカル・ルラン (PASCAL ROULIN)

映像ディレクター、デザイナー、プロデューサー。

ベルギー生まれ。19 歳からパリとカナダで長編映画の制作を始める。1977 年にパリに移り、1996 年から映像制作会社 pHstudio (東京) のアソシエイトとして制作活動が続ける。2002 年から東京在住。

実写、CG、アニメーションといった手法で、TV コマーシャル、ミュージックビデオ、オペラ、モーションライド、現代アート、建築、博覧会、童話、科学などの分野で数多くの作品を制作。

1998 年から現在まで、三宅デザイン事務所との協働により、映像、展覧会、商品、書籍、ロゴのデザインを手がける。21_21 DESIGN SIGHT の企画展では、「200 周年 目玉商品」展 (2008 年)、「REALITY LAB- 再生・再創造」展 (2010 年)、「アーヴィング・ペンと三宅一生 Visual Dialogue」展 (2011 年) 等に参加。

リンツのアルス・エレクトロニカでゴールデン・ニカ賞を受賞 (1993 年)。その他、プラネタリウム作品 (日本科学未来館)、IMAX 作品 (セビリア万博、フランスパビリオン、1992 年)、トロントの IMAX Space Team とのコラボレーション、アニメシリーズのコンセプトデザイン (日本/米国、2019-2021 年)、彫刻作品集の共同監修などを手がける。

■ クリストとジャンヌ＝クロード



03. クリストとジャンヌ＝クロード ニューヨーク、ソーホーの自宅にて 2004年9月26日
(Photo: Wolfgang Volz © 2004 Christo and Jeanne-Claude Foundation)

クリストは1935年6月13日、ブルガリアのガブロヴォで生まれました。ジャンヌ＝クロードは同年同日にモロッコのカサブランカで、フランス人の両親の元に生まれました。クリストは1956年にブルガリアを離れ、まずチェコスロバキアのプラハへ、1957年にはオーストリアのウィーンに亡命し、その後スイスのジュネーブに移り住みます。1958年、パリに渡ったクリストは、妻であると同時に生涯にわたる共同制作者となるジャンヌ＝クロードと出会い、モニュメンタルな環境芸術作品を制作することになります。2009年にジャンヌ＝クロード、2020年にクリストはこの世を去りました。

初期の「包まれたオブジェ」、「パッケージ」からモニュメンタルな屋外プロジェクトまで、クリストとジャンヌ＝クロードの作品は、絵画、彫刻、建築といった従来の枠を超越したものでした。彼らの作品には、「包まれた海岸線、100万平方フィート、オーストラリア・シドニー、リトル湾、1968-69」、「ヴァレー・カーテン、コロラド州ライフル、1970-72」、「ランニング・フェンス、カリフォルニア州ソノマ郡とマリナー郡、1972-76」、「囲まれた島々、フロリダ州グレーター・マイアミ、ビスケーン湾、1980-83」、「包まれたポン・ヌフ、パリ、1975-85」、「アンブレラ、日本＝アメリカ合衆国、1984-91」、「包まれたライヒスターク、ベルリン、1971-95」、「ゲート、ニューヨーク市セントラルパーク、1979-2005」、「フローティング・ピアーズ、イタリア・イセオ湖、2014-16」、「ロンドン・マスタバ、ハイドパーク、サーペンタイン湖、2016-18」などがあります。

21_21 DESIGN SIGHTでは、特別展「クリストとジャンヌ＝クロード展 LIFE=WORKS=PROJECTS」（2010年）の開催に合わせて来日したクリストが、トークイベントに出演しました。企画展「『そこまでやるか』壮大なプロジェクト展」（2017年）では、「フローティング・ピアーズ、イタリア・イセオ湖、2014-16」を映像やドローイングで紹介しました。

■ 本展の見どころ

本展は「包まれた凱旋門」の実現までの道のりをシネマティックに紹介するセクションと、クリストとジャンヌ＝クロードの生涯に渡る活動をドローイングやオブジェ、資料を交えて紹介するセクションを中心に、ギャラリー1 & 2、ギャラリー3の全館を使って展開します。

● 「包まれた凱旋門」の制作背景（企画構成：パスカル・ルラン）

クリストとジャンヌ＝クロードが残した貴重な写真を、映像作家パスカル・ルランが様々な視覚手法で再構成する、空間インスタレーションです。構想から、準備、交渉、実現までの約60年という長い道のりを、まるで一本の映画の中のように、ダイナミックな空間を通して体験できます。

「包まれた凱旋門」のプロジェクトは、長年の協力者をはじめ、技術者やスタッフ、パリの市民など、多くの理解者と共に実現しました。ジャンヌ＝クロード亡き後も、クリストは彼ら一人一人とコミュニケーションを続けながら試行錯誤を繰り返し、多くの困難を乗り越えてきました。ワーキング・ファミリーなどへのインタビュー映像を通して、二人が歩んだ道のり、実現の喜びを感じていただけます。

またこのプロジェクトのために製作した銀色のコーティングが施された青い布と赤いロープも展示します。

● 「二人のアーティスト：創作の64年」（企画構成：柳正彦）

長年にわたりクリストとジャンヌ＝クロードの活動を支え、ワーキング・ファミリーの一人でもある柳正彦により、ドローイングやオブジェ、資料を交えて、クリストとジャンヌ＝クロードの生涯にわたる活動を紹介します。2017年に収録された、クリストの貴重なインタビュー映像もご覧いただけます。（映像：ドローイングアンドマニュアル）

このセクションでは、下記の通り、一部展示作品の入れ替えを行います。

第一期：Japan: 日本とのつながり

2022年6月13日(月) - 9月12日(月)

第二期：Printed Matters: グラフィックとエディトリアル・ワーク

2022年9月14日(水) - 12月12日(月)

第三期：Oil Barrels: 「パリ・スカルプチャー」から「マスタバ」へ

2022年12月14日(水) - 2023年2月12日(日)

■ プレス画像



04. Christo and Jeanne-Claude
"L'Arc de Triomphe, Wrapped, Paris, 1961-2021"
(Photo: Wolfgang Volz © 2021 Christo and Jeanne-Claude Foundation)



05. スタジオで「包まれた凱旋門」のドローイングを描くクリスト、2019年9月
(Photo: Wolfgang Volz © 2019 Christo and Jeanne-Claude Foundation)



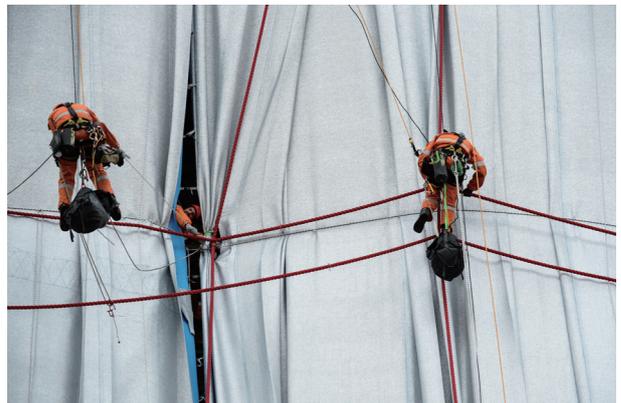
06. 凱旋門の柱前面の彫刻を守るために、鉄の枠を設置している様子
(Photo: Wolfgang Volz © 2021 Christo and Jeanne-Claude Foundation)



07. 凱旋門の外壁の前面に布を広げている様子 -1
(Photo: Benjamin Loyseau © 2021 Christo and Jeanne-Claude Foundation)



08. 凱旋門の外壁の前面に布を広げている様子 -2
(Photo: Wolfgang Volz © 2021 Christo and Jeanne-Claude Foundation)



09. 凱旋門の布を固定し、輪郭を整えるためのロープが設置されている様子
(Photo: Benjamin Loyseau © 2021 Christo and Jeanne-Claude Foundation)

■ プレス画像

#10-11: 写真: 宇戸浩二

#12-20: 写真: 宇戸浩二 © ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2022 G2872



10. 「包まれた凱旋門」で使用された、赤いロープと布



11. 「包まれた凱旋門」で使用された布の原材料



12. 「包まれた薔薇」オブジェ、1993年



13. 「包まれた本」オブジェ、1973年

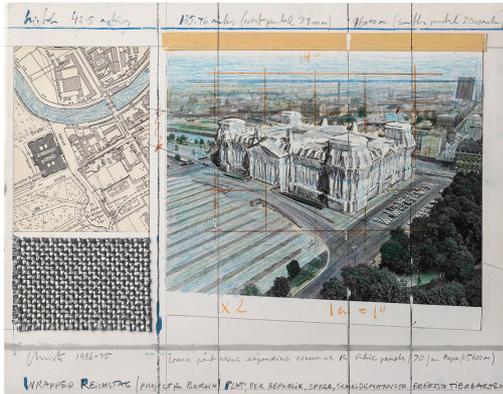


14. 「パッケージ」オブジェ、1965年

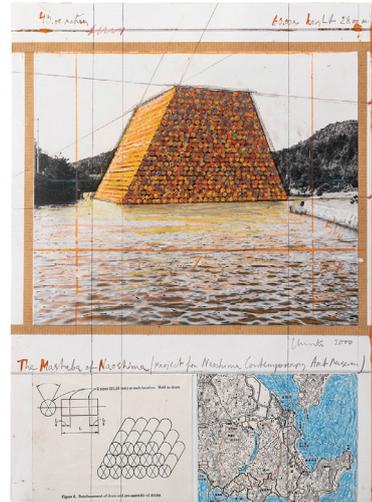


15. 「包まれた女性」リトグラフ、1997年

■ プレス画像



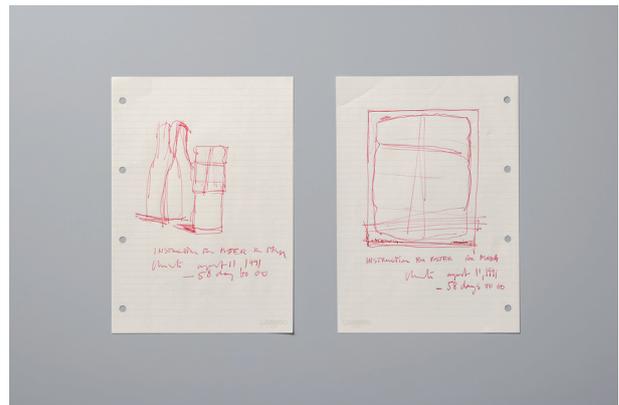
16. 「包まれたライヒスターク」 コラージュ、1995 年



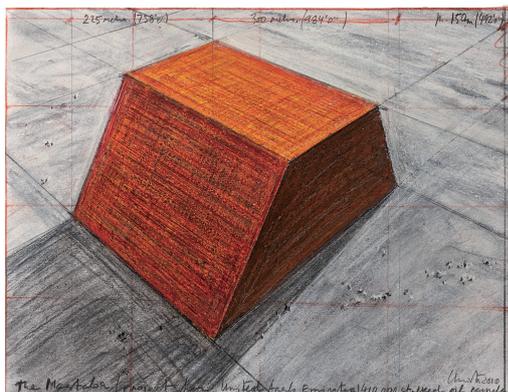
17. 「直島のマスタバ」 コラージュ、2000 年
* 「第一期：Japan: 日本とのつながり」 展示予定作品



18. 「ドラム缶の壁のためのポスター」 プリント、1962 年
* 「第二期：Printed Matters: グラフィックとエディトリアル・ワーク」 展示予定作品



19. 「ポスターのためのスケッチ」 スケッチ、1991 年
* 「第二期：Printed Matters: グラフィックとエディトリアル・ワーク」 展示予定作品



20. 「マスタバ、アラブ首長国連邦のプロジェクト」 ドローイング、2010 年
* 「第三期：Oil Barrels: 『パリ・スカルプチャー』 から『マスタバ』へ」 展示予定作品

■ 開催概要

会期	2022年6月13日(月) - 2023年2月12日(日)
休館日	火曜日、年末年始(12月27日 - 1月3日)
開館時間	10:00 - 19:00 (入場は18:30まで) *ただし、6月13日(月) - 17日(金) は13:00 - 19:00 (入場は18:30まで)
入館料	一般1,200円、大学生800円、高校生500円、中学生以下無料 *ギャラリー3は入場無料
会場	21_21 DESIGN SIGHT 〒107-0052 東京都港区赤坂9-7-6 東京ミッドタウン ミッドタウン・ガーデン tel. 03-3475-2121 www.2121designsight.jp
アクセス	都営地下鉄大江戸線・東京メトロ日比谷線「六本木」駅、 東京メトロ千代田線「乃木坂」駅より徒歩5分
主催	21_21 DESIGN SIGHT、公益財団法人 三宅一生デザイン文化財団
後援	文化庁、港区教育委員会、在日フランス大使館 / アンスティチュ・フランセ日本
特別協賛	三井不動産株式会社
協賛	株式会社イッセイミヤケ
特別協力	クリスト・アンド・ジャンヌ = クロード財団
展覧会ディレクター	パスカル・ルラン
企画協力	柳 正彦 (「二人のアーティスト：創作の64年」企画構成)
グラフィックデザイン	野間真吾
会場構成	中原崇志
テクニカル ディレクション	遠藤 豊 (LUFTZUG)
21_21 DESIGN SIGHT ディレクター	三宅一生、佐藤 卓、深澤直人
アソシエイトディレクター	川上典李子
プログラム・マネージャー	中洞貴子
プログラム・オフィサー	西田麻海江

■ オンライン記者会見、プレスビュー

オンライン記者会見	2022年6月10日(金) * 詳細は決定次第お知らせします
プレスビュー	2022年6月13日(月)、15日(水) - 17日(金) 10:00 - 13:00 プレスビューへの参加をご希望の方は下記 URL または QR コードからお申し込みください。 https://forms.gle/otGo7LU9UTBfB1oU7

